

新型コロナ

子どもたちへの感染防止に全力を！

日野市 教育委員会は、児童・生徒に感染者が出て、「マスクを着用している事をもって、保健所が大丈夫と判断した」として、PCR 検査を行いません。

日野市の 学校現場における 感染状況は？

児童 15 人 生徒 14 人 計 29 人
教職員 小学校 5 人 中学校 2 人 (7月1日現在)

また、「感染者が複数回、発生している学校があるのか？」と質問しても答えません。同じ学校で、複数回、発生している場合に、その原因がどこにあるのかを特定する必要がありますから、外部からも検証ができるようにするために、学校名や児童名などの固有名詞を省く事を前提に、基本的な情報を公開するよう求めたのですが、市教委は、「子どものプライバシーを守るため」という理由で、回答を拒否しました。「混乱を避けたい」という行政の都合の方を優先させる日野市の情報公開の在り方は、決して、子どものためにはなりません。情報を公開してこそ、「混乱」は避けられると考えます。引き続き、情報公開するよう求めます。

クラスター・学校等が最多！

厚労省のデータでは、7月の12日から21日に発生したクラスター140件のうち、最多にあたる38件が学校教育施設で発生しています。変異種のデルタ株の方は感染力が強く、子どもの重症化も懸念されています。子どもの命と健康を守るためにも、教育現場におけるPCR検査の強化を求めます。

電磁波の影響 かえりみず 見切り発車

タブレット端末の授業にあたり
子どもの健康に最大の配慮を！



文科省は、小中学生一人に一台のパソコン・タブレットを配備し、教室に高速大容量の通信網を整備する「ギガスクール構想」を打ち出しました。

しかし、無線ランに接続すると、電力密度が一気に490倍に跳ね上がるため、無線周波数 電磁波の健康への影響が指摘されています。

欧州の学会では、人体に安全な無線ランを推奨しているのと対照的に、日野市のタブレットは、無線接続しかできません。

電磁波過敏症になった教師の事例も紹介して、有線ランへの切り替えを求めました。少なくとも、電磁波に敏感な子どもへは、有線ランアダプターの提供が必要です。

また、新宿区では、子どもたちの目を守るために、購入と同時に、全員分のブルーライトカットシールを予算化しています。

「日野市も、それくらいの手当は早急にするべき」と要求。市は、「シールの効果があるのかを検証してからにしたい」と、回答しました。